

平成 29 年度

「運営に関する計画」

自己評価（総括シート）

大阪市立白鷺中学校

平成 29 年 4 月

平成 29 年度 学校経営方針

平成 29 年度が始まりました。まずは教職員 44 名『チーム白鷺』のスタートにあたり、昨年度、学校協議会でいただいた意見を盛り込み、方針を述べます。

① すべては平成 30 年度「創立 50 周年記念事業」に向けて

昨年に引き続き、平成 30 年度『創立 50 周年記念事業』を大きな目標にし、今年度は『STEP 年』として取組めます。

新教育目標【「心」～魅力ある生徒の育成～】新校訓【思いやり・そうぞう力】を基に、合言葉【「思いやり」と「そうぞう力」にあふれる、みんなにとっておもしろい学校】を設定することができました。各学年や各部署等で、今年度の目標も設定されると思いますが、是非合言葉を意識した『Step 年』となるようよろしくお願いいたします。

また、今年度は『大阪市教育振興基本計画』の改訂があり、『運営に関する計画』の 4 か年の中期目標や年度目標も新たに設定し、『(改訂)白鷺中マニフェスト』と共に進めて参ります。

② 「(改訂)白鷺中マニフェスト」について

本校の課題として取組んできた『課題ユニット』については一定の成果を収めることができました。また、年度末には目標等の見直しも行われ、『STEP 年』に相応しい『(改訂)白鷺中マニフェスト』が策定されました。広がりから深みを意識するとともに、高みを目指し『運営に関する計画』とともに教育の拠り所として活用をして参ります。

③ 職員室の在り方

昨年度、第 1 段階として職員室統一により『職員室ルール』も設定されました。しかしまだまだ**全員の共有スペースという認識が薄い**部分も見受けられることも事実です。学校協議会でもこの部分は指摘があり、改善が必要とされます。

美味しい料理を提供するには厨房を清潔にしておくことと同じで、いい教育を提供するには清潔な職員室が必要です。常に整理整頓・清潔を心掛けてください。

また、教職員間の『報・連・相』も円滑に行なわれるようになってきましたが、更にこまめな情報交換(会話によるもの、校務支援 PC を利用するもの)をよろしくお願いいたします。

昨年に続き教頭・教頭代理が前方に座ることから、二人を筆頭に職員室を運営していただきます。仕事上の明確な線引きはしませんが、主として人的管理を教頭に、教育管理を教頭代理に担っていただき、それ以外のことは二人で解決していただきます。

④ 組織・校内人事についての考え方

転入・新規採用者を含め、『学校経営に対する参画意識及び積極性』に重きを置き、役職を担ってもらおうよう組織しました。常に**前例通りではなく、新しい発想と企画**で進めてほしいという期待感があります。

但し、半年ペースで組織の見直しも行い、動きがみられず成果・将来展望が思わしくないのではないかと判断した時は、年度内でも組織再編成を行うこともありますのでご理解ください。

なお『課題ユニット A』の会議結果はその場で決裁をしますので、スピード感を保つためにも校務支援 PC 連絡掲示板等の活用を図るようよろしくお願いいたします。【次ページへ】

⑤ 学力向上について

国数英を中心とした『たて持ち』授業の実践により、教科内の打ち合わせ等も活発に行われ、『授業がわかる調査』や『授業アンケート』のデータを見る限り、学力向上に関するスコアは確実に上がっています。今年度も継続して行いますのでよろしくお願いいたします。

また、『ICT 機器等を活用した授業』『主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)』も広まりを見せてきました。今年度はこれに加え、ユニバーサルデザイン(UD)も意識しながら教室環境整備にも努めてください。また、ICT ルームや学習室の整備を早急に進めて参ります。

⑥ 生活指導について

白鷺中学校では、部活動を中心に生活指導が進められてきた現実があります。しかし全員が加入しているわけでもありませんし、部活動によって指導の仕方も違っているため、顧問による裁量に頼ることになりがちと思われまます。

従って、部活動から学校・学年・学級へと指導の軸を変え、【洞察・予見】を働かせ、日常から早期発見、早期対応が行えるよう研鑽をつみ、子どもたち全員に『所属感が味わえる』『居場所がある』等と感じさせられるような教育活動を行ってください。部活動はそれを支える重要な役割になると考えています。

生活指導の概念として、ピア・サポートの理念を理解し、子どもたちの自発性を促しながら『心に迫る、諭す指導』を心掛けてください。決して切り捨てることのないようよろしくお願いいたします。

また、若手教職員の育成を主眼とした研修の場を設け、メンターが中心となる動きを期待します。生活指導や学力向上、危機管理等の研修による学校活性化を狙っていきます。

⑦ 教職員の評価について

財源移譲に伴い、評価・育成システムの運用は今年度で終わり、試行的に人事考課の相對評価を意識したものに移行されていきます。出来る限り評価を厳正に行うためにも WE-通信③を通し、その都度周知してまいりますのでよろしくお願いいたします。

昨年度は夏・冬休みに下記 5 点の観点でコメントをつけて事前評価を行いました。今一度観点を見直して参ります。追って周知致しますが、課題となっている『勤怠』処理や学校協議会で指摘のあった共有スペース、職員室の『自席整理』は評価項目としてあげる予定です。

1. 授業環境の整備や授業力
2. 生徒(指導)に対する向き合い度
3. 組織運営に対する参画度・貢献度
4. 学校マネジメントに対する協調度(コンプライアンス遵守等)
5. 校務支援やHP を利用した発信力

但し、次年度も授業アンケートの『授業力スコア』は大きく評価に影響します。校内調査による『授業がわかる調査』と巡回調査による『授業の雰囲気視察』を併用し、『授業アンケート』だけのものだけでなく、3 方向から見る偏りのない評価を今年度も引き続き行う予定です。

先ずは、各自授業力向上に向けて研鑽を図るようよろしくお願いいたします。

平成 29 年 4 月 3 日

大阪市立白鷺中学校長 藤井 徹

「『心』～魅力ある生徒の育成～」

《学校運営の重点》「改訂 白鷺中学校マニフェスト」(以下、白中マニフェスト)より

創立 50 周年(平成 30 年)の理想像

「『思いやり』と『そうぞう力』にあふれる、みんなにとっておもしろい学校」

| 課題ユニット | | H29 年度目標 | H30 年度目標 |
|--------|-------------|--|--|
| A | ホーム ページ | 1 日アクセス数平均 320 | 大阪市 アクセス数トップ 学年末 1 年保護者対象の アンケート 50%以上が閲覧 |
| | ピア・ サポート | 不登校 4 人 (0.6%) 〔1 年 1 人・2 年 2 人・3 年 1 人〕 「未然防止の取り組み・相談指導・学校外機関(出 席認定)との連携の活性化と充実」 →ユニットの名称変更 | 不登校 0 |
| | キャリア 教育 | 基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポ ジティブ回答 78%以上 | 基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポ ジティブ回答 80%以上 |
| | 道徳 | 道徳の時間に「自分の意見を言えた、他人の意見 を聞いた」のポジティブ回答 70%以上 | 道徳の時間に「自分の意見を言えた、他人の意見 を聞いた」のポジティブ回答 72%以上 |
| | 学力向上 | 全国学テの結果を東住吉区内中学校 No.2 にする | 全国学テの結果を東住吉区内中学校 No.1 にする |
| | ICT | ①学校平均 75%以上 ②満足度最終 75%以上 | ①学校平均 80%以上 ②満足度最終 80%以上 |
| | 防災教育 | ・独自の G アンケートで「やりがいがあった」と いう肯定的評価を 100%にする。 ・防災の取組や発表によって「防災意識の高まり が感じられた」のポジティブ回答が 70%以上。 | ・独自の G アンケートで「やりがいがあった」と いう肯定的評価を 100%にする。 ・防災の取組や発表によって「防災意識の高まり が感じられた」のポジティブ回答が 75%以上。 |
| B | 小中連携 | 将来への夢や希望につながる項目で、ポジティブ 回答 78%以上 | 将来への夢や希望につながる項目で、ポジティブ 回答 80%以上 |
| | 人権 | 全国学力・学習状況調査『自尊感情』の項目で平 成 28 年度数値以上を上回る。 | 全国学力・学習状況調査『自尊感情』の項目で全 国平均より上回る。 |
| | 教育課程 | シラバス素案作成・検討。新学習指導要領に向け た準備 | 白鷺中学校シラバスの発行 新学習指導要領試行開始 |
| | 元気アップ | 地域に役立つ人材育成を目的とした元気アップ隊 の達成感 90%以上にする。 | 地域に役立つ人材育成を目的とした元気アップ隊 の達成感 100%にする。 |
| | 図書館 | 1 週間の来館者数が、延べ人数で、全校生徒の 15%になること。(昼休み、放課後を合わせて) | 1 週間の来館者数が、延べ人数で、全校生徒の 20%になること。(昼休み、放課後を合わせて) |
| | 給食 | 平成 31 年度 2 学期までは、事務作業を中心に行う。 | |

大阪市立白鷺中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、平成30年度の創立50周年に向けた学校づくりを進めている。そのために、「白中マニフェスト」を作成している。喫緊の課題ごとにグループを設置し、目標を掲げて、それに基づき教育活動に取り組むこととしている。

また、この取り組みを平成31年度から次の10年間へと繋げるため、継続性を持たせた組織運営を構築することが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成32年度の全国学力・学習状況調査において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を98%以上にする。

○平成32年度の校内調査生徒アンケートの自己肯定感に関わる項目のポジティブ回答が80%以上になるようにめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成32年度の校内調査において「授業がわかる」の項目を全教科78%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95% 以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 6 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「上体起こし」の平均の記録を前年度より 3 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度の校内調査において「授業がわかる」の項目を 5 教科及び全教科平均において 75% に向上させる。

【その他】

- 白中マニフェストを着実に実行することによって、効果を上げる。

3 本年度の自己評価結果の総括

| |
|--|
| |
|--|

大阪市立白鷺中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【2つの最重要目標】 【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○平成29年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】防災教育G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた防災教育を設定し、地域・行政と連携して学習を進めていく。子どもの防災リーダーの育成を目指し、多くの取組を行う。 ・南海トラフ大地震を想定し、避難所訓練合宿を地域と共に進め、生徒にリーダーの資質が備わるよう、避難所経営体験をさせる。(ガバナンス改革関連) <p>指標・防災リーダー対象の独自のアンケートで「やりがいがあった」というポジティブ回答を100%にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に取組や発表によって「防災意識の高まりが感じられた」のポジティブ回答を70%以上にする。 | |
| <p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】ピア・サポートG</p> <p>安心・安全な学校づくりのために、話し合い活動(各目標を系統立ててPDCAサイクル)を行い、お互いが認め合えるような雰囲気を作っていく。また、そのために教職員での話し合い活動、研修会も行う。(学校サポート改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査の「学校の友達と会話することができている」「学校の友達と会話して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」「まわりの人と協力しようとしている」の項目のポジティブ回答を80%以上にする。 ・不登校生の割合を全校生徒の0.6%まで減少させる。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】道徳教育G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲を養う。 ・年間指導計画に基づき、系統立てた実践を行う。 ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選を行う。 ・道徳の授業の相互参観、研究協議等の研修を行う。 (カリキュラム改革関連) <p>指標 校内調査で道徳の時間に「自分の意見を言えた」「他人の意見を聞いた」のポジティブ回答を70%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】人権教育G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の教育実践を進める。また、他のグループとの連携をはかる。 ・違いを認め合い、いじめや差別を許さない集団を育成する。 ・平和登校日を設定し、平和の取り組みを行うことにより、人権尊重の意識を高める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革関連) <p>指標 全国学力・学習状況調査で「自尊感情」の項目で、平成28年度以上を上回る。</p> | |
| <p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】特別支援教育委員会</p> <p>特別支援学級在籍の有無に関係なく、特別な支援を必要とする生徒にできる限りの支援を行う。 (カリキュラム改革・マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも、毎月全職員に配慮を要する生徒の情報を提供し、共有する。 ・学期に1回、事例研修会を行い、具体的支援の方法を考える。 | |
| <p>取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】キャリア教育G</p> <p>【思いやりとそうぞう力を持った子どもの育成】という、めざす子ども像を共通認識したうえで、自分自身をしっかりと内観させ、将来への展望を持たせると共に、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる取り組みをすすめる。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標 基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポジティブ回答78%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習】生活指導部</p> <p>学校の取り組みに理解・協力を得られるよう、家庭・地域との情報交換を推進していく。 (ガバナンス改革)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度校内調査における「服装や学校の決まりを守っている」・「学校の施設を大切にしている」のポジティブ回答の平均を、3年生95%以上、2年生93%以上、1年生91%以上、全学年で93%以上にする。(昨年度92.1%) ・平成29年度校内調査における「学校へ行くのが楽しい」のポジティブ回答を、3年生85%以上、2年生82%以上、1年生79%以上、全学年で82%以上(昨年度80.8%)、「学校や地域で大きな声で挨拶をしている」のポジティブ回答を、3年生70%以上、2年生67%以上、1年生64%以上、全学年で67%以上(昨年度64.7%)にする。 ・日々の生徒指導や電話連絡、家庭訪問、地域行事の参加等で家庭・地域の信頼を得て、平成29年度学校評価保護者アンケート項目の『教職員は子ども、保護者、地域に誠意を持って接している』のポジティブ回答を75%以上にする。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習】元気アップG 元気アップ地域本事業やそのボランティアとの連携を、地域に役立つ人材の育成をはかる。 (マネジメント改革関連)</p> | |
| <p>指標 地域に役立つ人材育成を目的とした元気アップ隊の達成感 90%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑨【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習】ホームページG ・本校の活動を保護者、地域に向けて、情報の発信をおこなう。 ・生徒の自己肯定感を高める。 (マネジメント改革関連)</p> | |
| <p>指標 本校ホームページへの1日平均アクセス数 320件をめざす。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <p></p> | |

大阪市立白鷺中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A:目標を上回って達成した | B:目標どおりに達成した |
| C:取り組んだが目標を達成できなかった | D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【2つの最重要目標】</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 ○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率6割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○平成29年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「上体起こし」の平均の記録を前年度より3ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度の校内調査において「授業がわかる」の項目を5教科及び全教科平均において75%に向上させる。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】学力向上G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着と家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・国数英の3教科で、習熟度別少人数授業や分割授業を行い、個に応じた指導を展開する。 ・すべての教科での話し合い活動を目指す。(カリキュラム改革関連) <p>指標 全国学力学習状況調査の結果を東住吉区の中学校の中でNo.2にする。</p> | |
| <p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】ICTG</p> <p>授業はもちろん、様々教育活動において、ICT機器を活用し、学力向上をめざす。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査の「授業がわかる」「授業が楽しい」の項目において、学校平均を75%以上にする。 ・校内調査の「ICTを活用した授業・学校行事の満足度」の項目において、学校平均を75%以上にする。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】国語 単元ごとに小テストや漢字テストを継続的に行う。また、プリントや漢字練習の宿題を出すことで基礎学力の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。 ・全学年の小テストや漢字テストの正答率を70%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】社会 ・宿題を課して、家庭学習の定着を図る。 ・言語活動や話し合い活動につながるような授業の工夫を行う。 ・学習範囲に応じて小テストを行い、基礎的な知識の確認をする。 ・ICTを使った授業作りを心掛け、アクティブラーニングに取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。 ・全学年の提出物の回収率が8割を超えるようにする。</p> | |
| <p>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】数学 分割授業をして、個の状況に応じた支援を積極的に試みる。(カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】理科 興味関心をもたせる・学習意欲を向上させるために、理科室での実験や新しい視聴覚機器を利用した授業を推進する。また、基礎学力を定着させるために、プリントを用いた学習や小テストを作成・実施し、また家庭学習教材も工夫する。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。 ・理科室は全学年で、年間300回以上利用する。 ・視聴覚機器の利用やプリント学習、小テストを週に2回以上実施する。</p> | |
| <p>取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】音楽 歌唱やリコーダー、鑑賞を通して音楽に対する知識や興味関心を高める。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑧【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】美術 発想・構想・制作のそれぞれの段階で鑑賞教材やプリントを工夫し、学習目標をわかりやすく伝える。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標 校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする</p> | |
| <p>取組内容⑨【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】保健体育 思考を持って判断できるように、タブレット、プロジェクター、電子黒板、拡大資料の使用を系統的にできるようにし、知識・理解を深められるように、図解中学体育(実技の教科書)の使用もしていく。 保健体育の授業は「楽しい」「目標が明示されている」「振り返る活動を行っている」「助け合う活動を行っている。」と答えた生徒は体力合計点が高く、総運動時間も多かったことから、教員が具体的な取組(生徒同士の話し合いを促す等)を行うことにより、生徒自ら工夫して取り組む可能性があると考えられる。 また、毎時間のトレーニングを工夫して行う。 (カリキュラム改革関連)</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ・平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「上体起こし」の平均の記録を前年度より3ポイント向上させる。 ・平成29年度の校内調査における「授業がわかる」の項目を75%以上に向上させる。 | |
| <p>取組内容⑩【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】技術・家庭基礎的な技能を習得させるにあたり、実習の手順・作品の制作方法をわかりやすく生徒に伝えるために、導入においての視覚教材やプリントを用いた説明を工夫する。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。 ・総授業時間数の半数以上を実習に充てる。 | |
| <p>取組内容⑪【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカード、CDプレーヤーやICTも使用し、生徒の興味・関心を高め、「わかる授業」を展開する。 ・自分の考えを英語で表現する授業を展開する。 <p>(カリキュラム改革・グローバル化改革関連)</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を75%以上にする。 ・全学年で新出単語や文法項目の小テストを行い、正答率6割を目指す。 | |
| <p>取組内容⑫【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】健康教育部+給食G 『食育つうしん』の活用、保健委員会からの活動などを通して「食」に対する意義を理解させ、さらなる意識の向上を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」の項目で「当てはまる」の回答を90%以上にする。 ・家庭科と連携して「食」に関する授業の後にアンケートを取り、ポジティブ回答を70%以上にする。 ・保健委員会からの集会・放送などでの啓発活動を引き続き行う。 | |
| <p>取組内容⑬【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】小中連携G 小中連携作業部会と推進部会との連携をはかり、各分野での取り組みを実践する。 (マネジメント改革関連)</p> | |
| <p>指標</p> <p>校内調査における「将来への夢や希望につながる」項目で、ポジティブ回答78%以上にする。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| | |